

動画はこちらから→



あらかわ ひろみつ 荒澤 広光 議員

# 最上川増水に伴う 内水氾濫の検証を

## 排水ポンプ稼働台数を増強を検討



氾濫危険水位まで達した最上川（堀内橋）

**質問** 7月25日からの豪雨により堀内川端線の内水位が上昇し、消防団は建設業者と連携し排水ポンプの据え付け作業を行っています。排水ポンプを設置する基準は明確か。今回の内水位は排水ポンプ専用の配電盤まで約35cmの高さまで上昇し安全な場所への移設、増設が急務なのでは。

**町長** 最上川の水位5.2mに達した段階で水防団出动となり、以後は現場の部隊長の判断に委ねられているところ。配電盤の移設、増設によりポンプ稼働台数を増やすことなどの対応を検討してまいります。

**質問** 堀内地区に通ずる県道は全て通行止めになり、急病人、火災等の発生を想定し最上小国川沿いの堤防道路を整備し緊急時の補完道路として要望する必要があると思いませんか。

**町長** 大雨等の災害時は決壊や越水の危険もあることから堤防の通行はなるべく控える必要があると思います。避難道路として現行の1車線を2車線にするなど、要件等を整備した場合に兼用道路としての利用が可能となる場合があります。

**質問** 今回の被害を関係者で再検証することが急務だと思いませんか。

**町長** 令和元年度に、最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会による「まるごとまちごとハザードマップ事業」を堀内地区で実施しております。地域防災力の維持・継続・強化を目的に堀内、瀬脇、実栗屋町内会及び国土交通省新庄河川事務所、舟形町、地元消防団

が一緒になって、浸水範囲や安全な避難経路の認等を行いました。この度の記録的な大雨により、今後、新たな課題も見えてくると思います。引き続き、内水処理や避難に関する様々な現状や課題を整理し、関係機関と情報を共有し、住民の皆様が安全・安心して暮らせるように対応してまいります。



内水氾濫により冠水した町道堀内川端線

←動画はこちらから



おぐに ひろふみ 小国 浩文 議員

# 水害対策の現状と課題は

## 今後は夫婦川に排水ポンプの整備を検討

**質問** 令和6年7月25日の夜間に今まで経験した事がない記録的な集中豪雨が起き、新庄、最上地区に甚大な被害が発生し、今後の復旧が待たれるところであり。当町でも舟形第1町内で崖崩れにより家屋の崩壊や、農地への冠水、第3町内寺下地区で床上浸水など多くの災害があり、大変な状況になっております。その中で寺下地区におい



予備ポンプもフル稼働

て昨年増水対策の堤防が完成し、排水ポンプも常設され、予備ポンプも使用されたようですが、それでも浸水を止めることが出来ませんでした。今後、このような状態を解消するため新たな機能強化を図る考えがあるのか。

**町長** 25日午後1時30分から、昨年度設置した常設の排水ポンプ3台を稼働し、26日深夜からは、予備ポンプ3台も稼働し、正午まで排水作業を行っていただきました。対策の1点目が、令和5年度に完成しておりますオートゲートと排水ポンプの整備であります。オートゲートは舟形観測所の河川水位が3mを超

えたところで閉じ、河川から寺下地区への流入を防ぎます。それに伴う内水の上昇は、ポンプ排水により対応しますが、排水能力は、山地排水を大堰が受けることを前提として、50年に1回の確率雨量から内水解析し、口径150mmポンプ6基と口径80mmポンプ2基の毎分13t(トン)で整備をしております。

**質問** 国において今年4鳥獣被害対策の充実を環境省マニュアルに沿って

月に有識者会議を経て、駆除などに対して国から資金などが出る指定管理鳥獣にクマが追加されました。それを受けて町としてどのように対応するのか伺います。

**町長** 当町の町猟友会への支援内容は、県内の鳥獣被害が大きい地域と比べても見劣りしない水準となっております。いずれの支援も、これまで町猟友会と話し合いを重ねながら支援内容を構築してきたものであります。捕獲時の報奨金については現状イノシシのみを対象としており、クマについては交付していない状況です。



生活圏に近付いてきた猛獣

必要に応じて増額について検討してまいりたいと考えております。また、当町としましては、現時点ではこれまでどおりの対応を行ってまいります。それと同時にクマが指定管理鳥獣に指定されたことにより、駆除対策が強化されることを期待しているところであります。特に住宅集合地域については、環境省のマニュアルや県の方針の変更を待って、対応を検討してまいりたいと考えております。